

教員推薦図書 2020年11月

推薦教員	国際学部 教授 大和田 栄 先生	<p>【推薦コメント】</p> <p>「言語」は、ヒトに固有のものとして一般に考えられる。もちろん、他の生物たちも何らかのコミュニケーションを行っていることは想像に難くないが、ヒトの「言語」と他の動物たちのコミュニケーションの仕組みは一定の違いがある。一般には「現在」以外のことを伝達することや恣意性などは、ヒトの言語に特徴的で、動物のコミュニケーションとは本質的に異なるものであると言える。そうした人の言語を司っているのは、もちろん「脳」であり、様々な研究から、人間の脳には言葉を専門に処理する部位があることもわかっている。</p> <p>19世紀後半に失語症の患者についての研究から、脳の中の言語に関わる箇所についての理解が進んだが、脳の中に言語野があることが明らかになったのは20世紀中頃になってからのことである。現在、MRIなどの技術の向上により、脳機能の解明が進んでいるものの、まだわからないことが多いというのも事実である。</p> <p>本書は、人間の言語が生得的な能力であるとするチョムスキーの説を裏付けるための実験の数々などの紹介とともに、自然言語のひとつである手話の研究などにも触れつつ、言語の仕組みについて、脳科学の視点から紹介してくれている。</p> <p>私自身、10年以上前に酒井先生の「言語の脳科学」という一般向けの講義を半年間受講させていただいたが、その際のテキストが本書であり、決して簡単とは言えないものの読みやすく書かれている。日々進展している分野のため、新たな発見もその後にあるようだが、基本的な考え方なども含めて、いろいろな気付きを提供してくれるものであり、一読する価値のある文献である。</p>
書名	言語の脳科学 ～脳はどのようにことばを生み出すか～ (中公新書)	
著者名	酒井邦嘉 著	
出版社	中央公論新社	
請求記号	491.371/Sak	
資料ID	901110902	